**論文を投稿するにあたり、下記の各項目をチェックし、著者チェック欄に「○」印を記入して下さい。**

記 入 日：　　　年　　月　　日（西暦）

タイトル：

筆頭著者氏名：

**【論文全般】**

 レフリーは、不適切と思われる項目欄に「○」印を記入して下さい。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 著者チェック |  | レフリーチェック |
| 1 |  | 論文の種類を明記している（｢原著｣、｢短報｣、｢報告｣、「症例報告」など）。 |  |
| 2 |  | 共同研究者および指導者の校閲を受けている。 |  |
| 3 |  | 論文の形式、長さは、投稿規定に準拠している。 |  |
| 4 |  | 論文に曖昧な表現を使用していない。過去形、文語体（ですます調ではなく、である調）で記述している。 |  |
| 5 |  | 序文、方法、結果、考察は明確に区分されている。（結果で方法や考察を、考察で方法や考察を述べていない。） |  |
| 6 |  | タイトル（メイン・サブ）、キーワード、図表タイトルおよび図表中では、抗菌薬名は一般名で記載し、商品名を使用していない。また、施設名は「当施設」、「当院」などとしている。 |  |
| 7 |  | 略号、省略形を使用した場合には最初は「full spell（略号、省略形）」で表記されている。 |  |
| 8 |  | 菌種名等は投稿規定に準拠して学名とし、イタリック体で表記されている。英文・和文のどちらかに統一し、英文表記は初出時にfull spellとし、以後は略表記されている。 |  |
| 9 |  | 本文には、表紙を1ページとしたページ番号と、行番号（第1ページからの通し番号）を表示している。 |  |
| 10 |  | ファイル名は必ず英文とし、アプリケーションはMicrosoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPointを推奨する。 |  |

**【倫理規定】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 著者チェック |  | レフリーチェック |
| 11 |  | 投稿規定の「倫理規定について」に基づき、必要に応じて倫理委員会、動物委員会、遺伝子組み換え実験安全委員会、病原体等安全管理委員会等の承認を得ている（本文中に承認番号を記載することが必要）。 |  |

**【利益相反】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 著者チェック |  | レフリーチェック |
| 12 |  | 本文末尾に利益相反について記載している。1）自己申告すべき内容がない場合には、論文の末尾に、「利益相反自己申告：申告すべきものなし」と記載する。2）自己申告すべき内容がある場合には、論文の末尾に以下の記載例の如く記載する。（執筆者の記載例）著者AはX株式会社から資金援助を受けている。著者BはX株式会社の社員である。著者CはY株式会社の顧問である。 |  |

**【タイトル】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 著者チェック |  | レフリーチェック |
| 13 |  | タイトルは論文の主題を的確に表している（｢○についての研究｣「清拭タオルの微生物管理」のような漠然としたタイトルは不適である）。 |  |
| 14 |  | タイトルは短く簡潔にしている。 |  |

**【要　旨】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 著者チェック |  | レフリーチェック |
| 15 |  | 主要な所見と結論を述べており、論文の概要を示している。 |  |
| 16 |  | 投稿論文の新規性、独創性、意義、特徴が掲載に値することがわかるように記載している。 |  |
| 17 |  | 本文と異なる、または誇張した表現になっていない。 |  |

**【キーワード】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 著者チェック |  | レフリーチェック |
| 18 |  | キーワードは用語集(学会ホームページに掲載)から使用し、用語集にない場合にはレフリーに判るように本文中に記載している。 |  |

**【序　文】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 著者チェック |  | レフリーチェック |
| 19 |  | 研究の背景となる既存情報と研究内容の関係および意義等が適切な文献を引用して簡潔・明瞭に述べられ、かつ冗長な一般論になっていない。 |  |

**【材料と方法】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 著者チェック |  | レフリーチェック |
| 20 |  | 菌株を使用する場合には、臨床分離株と菌株（標準株）を区別して記載する。標準株や参考菌株は、ATCC番号などが付与され、その株が特定できるものとする。 |  |
| 21 |  | 読者が追試を行えるように方法を具体的に記述している（一般的な方法であれば出典を明記し、記述を省略している）。 |  |
| 22 |  | 結果で述べられている全ての結果に相当する評価法が方法に記載されている。 |  |

**【結　果】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 著者チェック |  | レフリーチェック |
| 23 |  | 客観的に事実のみを記載している。 |  |
| 24 |  | 方法と結果を順序立て、明確に対応させている。 |  |
| 25 |  | 方法に記載されている評価項目に関する結果が不足なく述べられている。 |  |
| 26 |  | 抗菌薬感受性成績として、MIC を明記している。原則として判定基準がない抗菌薬については“感性”、“耐性”と表記していない。 |  |
| 27 |  | 適切な統計学的処理を行い、結果解釈の妥当性が示されている。 |  |
| 28  |  | 数行の記述ですむ成績を表にせず本文中に記述している。  |  |
| 29 |  | 有効数字､小数点以下の桁数などは揃えてある｡  |  |

**【図・表】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 著者チェック |  | レフリーチェック |
| 30 |  | 図表は著者が伝えたいデータとその解釈、特徴的な現象などを容易に理解でき、かつ日本環境感染学会誌に掲載できるよう明瞭に作製している。図表で示したデータから、主張すべきポイントや特徴的な現象を簡潔・明瞭に示している。 |  |
| 31 |  | 学会発表で用いた図表をそのまま原稿とせず、論文用に図表を作製している。また、不必要な立体的表現やカラーを使用していない。 |  |
| 32 |  | 図表で示した数値すべてを文章中に記述していない。 |  |
| 33 |  | 図表には、本文を参照しなくても、内容を理解できるよう説明、脚注をつけている。 |  |
| 34 |  | 表で示すことができる成績を図にしていない。 |  |
| 35 |  | 図表および本文の数値および計算値は十分に確認し、誤りがない。 |  |

**【考　察】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 著者チェック |  | レフリーチェック |
| 36 |  | 結果を繰り返し述べていない。 |  |
| 37 |  | 得られた結果に対して考察しており、一般論、レビューを冗長に述べていない。　 |  |
| 38 |  | 研究の目的と結果に直接関係のある内容に限定している。 |  |
| 39 |  | 科学的根拠がない結果に対して飛躍した考察をしていない。 |  |
| 40 |  | 既出の関連論文、既知の事実と比較して考察している。 |  |
| 41 |  | 論旨に一貫性があり、読みやすく工夫している。 |  |

**【引用文献】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 著者チェック |  | レフリーチェック |
| 42 |  | 文献は原則的に学術誌を引用しており、商業誌から引用していない。 |  |
| 43 |  | インターネット掲載文献を引用する際にはＵＲＬおよびアクセス日を記載している。 |  |

**【英文要旨】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 著者チェック |  | レフリーチェック |
| 44 |  | できる限り邦文要旨の直訳をしない。 |  |
| 45 |  | 本誌の他の論文を参照して作成する。 |  |
| 46 |  | 英文タイトル及び英文抄録はネイティブチェックを受けている。 |  |